

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

売店・食事処(ドライブイン)

A1 小泉屋 掛川市小夜鹿57-8

掛川市街から東へ約11km、自動車でも20分ぐらい、島田市(旧金谷町)に入る直前。

県道415号線(旧国道1号線)の、小夜の中山トンネルを抜けた、すぐ右側にある。

国道1号線バイパスを使う場合、日坂ICでバイパスを降りて、取り付け道路を左折し、突き当りの旧国道1号線を「夜泣石」表示の方向に右折し、ずっと直進して小夜の中山トンネルに向かう。



遠州七不思議のひとつ「夜泣石」は、諸事情があって2つが現存するが、その内の1つが小泉屋の上にある。(左の写真)

従前の液状の子育飴(右の写真)は、630円・1050円・1575円の3サイズが有る。粒状にして食べ易くした子育飴は、約55個入りで、525円。

ぜんざい・そば・うどん・おでんなども食べられる。



定休日：木曜日 営業時間：8時～18時半

問合せ：0537-27-1010

公式サイト：<http://koizumiya.com/>

掛川の東海道は、ここから始まります

A2 東の市境から小夜の中山峠まで

小泉屋を出て島田市(旧金谷町)に入り、旧国道1号線を金谷市街方向に向かう。400mほどで脇道へ右折、国道1号線金谷バイパスの下をくぐり、掛川市に入ったり出たりしながら300m、目立たない『小



夜の中山 久延寺方面』の道標から、右へ山道を登る。路面凍結注意。

この青木坂(箭置坂(やおきざか)とも、掛川市と島田市の境である道)を1km弱、『菊川の里(島田市) 日坂の宿(掛川市)』の道標が現れる。ここから、掛川市内の旧東海道が始まる。一帯は手入れの行き届いた緑豊かな茶畑に囲まれ、自然に心が和む。

『小夜の中山 久延寺方面』の道標から1.2kmで、小夜の中山峠の中心である久延寺に着く。



歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

東海道の三大難所の一つ

A3 小夜の中山峠

掛川市小夜鹿291(久延寺)

掛川市街から東に約10km、自動車ですぐ20分ぐらい。

国道1号線日坂バイパスの日坂ICから、県道415号線(旧国道1号線)を東に100m、「小夜の中山公園入口」の道標で右折、山道を登る。

勿論、バイパスを使わずに国道1号線と旧国道1号線を行っても良い。(八坂IC以西の掛川バイパス区間の旧道は現役の国道1号線であるが、八坂IC以东の日坂バイパス区間の旧道は県道415号線となっており便宜的に旧国道1号線と呼ぶ)

旧街道筋に多くの歌碑・句碑がある。西行法師や松尾芭蕉などもここを歩いたのかと想うと感慨深い。小夜の中山峠は、箱根、鈴鹿とともに東海道の三大難所。久延寺・夜泣石の伝説は勿論、そこには、扇茶屋や小夜の中山公園や浮世絵美術館(夢灯)など見どころが多い。

駐車場：有(久延寺前、10台程度)無料 トイレ：有 入場料：無料

同伴：家族連れ・一人づらり

問合せ：0537-21-1149 掛川市商工労働観光課

掛川市サイト：http://lgportal.city.kakegawa.shizuoka.jp/kanko/east/Nissaka_SayonoNakayama.html



歴史・文化

A3a 小夜の中山の歌碑と句碑

小夜の中山・久延寺を中心とした、3kmほどの街道筋に十を超える多くの歌碑・句碑が見受けられる。



因みに、「小夜の中山」を詠み込んだ和歌は、勅撰集だけでも四十余首が有るほどである。



代表的な和歌や俳句は、「年たけてまた越ゆべしとおもひきや命なりけりさやの中山」(西行法師)「東路のさやの中山さやかに見えぬ雲井に世をや尽くさん」(壬生忠岑)「馬に寝て残夢月遠し茶のけぶり」(松尾芭蕉)など。

忙しい日常を忘れ、一時を遠い昔に思いを馳せては如何だろうか。是非、自動車を降りて、徒歩で訪ねることを勧める。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

寺院

A3b 久延寺

掛川市小夜鹿291

山内一豊が家康をもてなした茶亭の跡や、その礼に家康が植えたとされる五葉松が残っている。

また、夜泣石伝説ゆかりのお寺としても有名。夜泣石伝説の音八を育てた寺。子育て観音の名で旅人の信仰を集めた夜泣石が安置されている。博覧会出品のゴタゴタで、此処の夜泣石は後世に新たに掘り出したものである。



峠の茶屋

A3c 扇屋

掛川市小夜鹿299

峠の名刹久延寺の周辺には、往時は20軒ほどの茶店があったといわれている。現在は「扇屋」だけが残っている。

買物目的だけでなく、歴史ある店舗を鑑賞されたい。

「子育て餅」「餡の餅」で有名だが、小夜の中山峠が主街道から外れて以降、作りたてでないと食せない「餡の餅」は廃れた(「竹の丸」にて「餡の餅」を実験的に復活販売中)。

土日祝日のみ開店、10時~16時

問合せ：0537-27-1474

公園

A3d 小夜の中山公園

夢灯の南側一帯

よく整備されており、春の桜にはじまり、新緑、紅葉と四季折々を楽しめる。

公園の高台に登ると雄大な富士山が見える。(写真は公園からの茶畑越しの富士山)



美術館

A3e 夢灯(ゆめあかり) 掛川市小夜鹿298-2

個人が運営する、浮世絵美術館。北斎・廣重を始め江戸時代後期の東海道の宿駅の浮世絵を数多く展示してある。ご主人にお願いすると丁寧に説明頂ける。

此処からは、粟が岳の“茶”文字が良く見える。

土日祝日のみ開館

10時~16時

大人300円・中高生200円

問合せ：0537-27-2237

展示入替：年4回

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

今度は下り坂

A4 小夜の中山峠から日坂宿まで

「A3b 久延寺」より西に500mで北に右折。クネクネ道を700m下り、突き当りを右折。更に700m下ると旧国道1号線に出る。左折して、「A5 日坂宿」に向かう。**路面凍結注意**。日坂宿に行かないときは、旧国道1号線に出て100mで国道1号線日坂バイパス日坂ICへの取り付け道路が有る。

少し距離が長くなるが、久延寺の西500mで右折せずに直進し、更に500m先のY字路を右に行くルートもある。途中で歌碑や句碑が有るし、自動車の場合は道が広くて走り易い。**路面凍結注意**。旧国道1号線の、前述のルートと同じ場所に出る。

Y字路を左に行くのが本来の東海道であるが、「沓掛の坂」という急坂が有るので、運転に慣れた人や健脚の人にだけお勧めする。**路面凍結厳重注意**。(蛇足だが「沓掛の時次郎」とは何の関係もない)

往時を偲ばせる宿場の町並み

A5 日坂宿

掛川市日坂

掛川市街から東へ約8km、自動車で15分ほど。

国道1号線掛川バイパス八坂ICから旧国道1号線を更に東に1.5km、「日坂宿入口」の道標を左に入る。



路線バスは、掛川駅北口より、東山線で、日坂停留所下車。

江戸から五十四里余。東海道五十三次、品川宿から数えて二十五番目の宿。宿場の東口から西口までの距離はおよそ700mの町並み。大井川の川止めの際や、雨の日(「沓掛の坂」を登るのが困難)には、賑わったという。33軒の宿屋が有った(掛川宿より5軒多い)が、建物は殆んど建て替えられてしまっていて往時の姿を留めているのは数少ないものの、江戸時代の宿場町の賑わいが思い浮かぶ。

本陣跡、旅籠屋の川坂屋・池田屋・萬屋、問屋場(といやば)の藤文(ふじぶん)、高札場などなど。いちばんの見どころである川坂屋(写真)には、太田備中守資美が掛川城主のときに譲られた数寄屋造りの茶室がある。川坂屋の襖や屏風の書は見応えがある。

駐車場：有(10台以上)無料 トイレ：有 入場料：無料(子供：可)

開館(川坂屋等)：土日祝日、10時～16時(入館は15時半まで)

ボランティアガイドにお願いすると、丁寧に案内頂ける

同伴：家族連れ

土産：わらび餅(山本屋、農協の向かい)

問合せ：0537-21-1149 掛川市商工労働観光課

掛川市サイト：http://lgportal.city.kakegawa.shizuoka.jp/kanko/east/Nissaka_SayonoNakayama.html

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

景観・自然

A6 粟ヶ岳(あわがたけ)

掛川市東山1050-1(売店の住所)

東海道を少し離れ、日坂宿から約11km北に向かうと、粟ヶ岳に着く。

日坂宿からほぼ一本道。麓に最近「A7 東山いっぷく処」が出来た。

麓からの道は、自動車で登るには、すれ違いが少々大変。麓から徒歩で登ると、1時間程度。

麓までの路線バスは、掛川駅北口より、東山線、東山停留所(終点)下車。

掛川を代表する山である(標高532m)。旧掛川市内のいたる所から見える。

天気の良い日には、山腹の大きな“茶”文字が、小夜の中山峠や国道一号線日坂バイパスや東名高速道路や東海道新幹線などから見える。

自動車で行ける道路の終点到売店が有り、軽食も出来る。売店脇の駐車場には数台しか停められないが、僅かに手前に大駐車場が有る。

山頂近く(売店の屋上など)からの眺めは最高。大茶園や大井川、太平洋、遠く南アルプスや伊豆の山々まで見渡すことができる。

山頂付近には無間の鐘(むげんのかね)伝説の井戸跡や、阿波々神社がある。

また、桜の名所として有名。染井吉野、里桜、山桜など約5千本が咲き誇る。開花時期は、下界よりも1~2週間ほど遅い。

歩いて登る道は、四季各々に美しい景観をひろげる自然散策路となっており、春先にはワラビやゼンマイなどの山菜狩りも楽しめる。

駐車場:有(60台)無料 トイレ:有

売店開店:10時~16時(定休日:毎週月曜) いも汁ご飯600円(土日のみ)

同伴:家族連れ・二人連れ・一人ぶらり

問合せ:0537-21-1149 掛川市商工労働観光課

お休み処・売店

A7 東山いっぷく処

掛川市東山1173-2

「A6 粟ヶ岳」の麓にある地域密着のお店。地元で製造されたこだわりの東山茶の情報発信基地。

東山茶を飲んで“いっぷく”しては如何。東山茶は勿論、茶文字まんじゅう、とれたて野菜、手造り惣菜などを取り揃えている。

営業日:3月下旬~5月末は無休、それ以外は土日祝日 営業時間:9時~16時

問合せ:0537 27-2266 ブログ:<http://ippukudokoro.hamazo.tv/>



歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

旧国道1号線を西へ

A8 日坂から東山口まで

「A5 日坂宿」を西に抜け、旧国道1号線に出るとすぐ、東山口に入り、南に「A9 事任八幡宮」が有る。

更に数百 m 西に進むと、南に少し引っ込んで、「A10 道の駅掛川」が有る。

旧国道1号線を更に西に1 km ぐらい進むと、国道1号線バイパスの八坂ICが有る。

因みに、此处までは旧国道1号線(県道415号線)、此处からは国道1号線であるが、国道から県道に格下げされてから日が浅いせいか、道の作りに差はない。

八坂ICの先、八坂橋を左に見て進み、国道1号線から離れて左の旧道に分岐する。

徒歩のときは大型トラックに注意しながら、数百mで、「A12 伊達方一里塚」に着く。



神社

A9 事任八幡宮(ことのみまはちまんぐう)

掛川市八坂642

掛川市街から東に約7 km、東山口の東端に位置する。通称「八幡様」。

国道1号線掛川バイパス八坂ICから旧国道1号線を更に東に1.5 km、右手(南側)にある。駐車場へは、手前(西側)の道を右(南)に入る。

路線バスは、掛川駅北口より、東山行き、八幡宮前停留所下車。

「枕草紙」に登場、「思いのままに願い事が叶う」神社として信仰された。現在でも、願い事を持って訪れる人が多い。

ご神木の杉は、坂上田村麻呂が植樹したと伝えられ、県の天然記念物に指定されている。

秋(「敬老の日」前の3日間の金土日)には、例大祭(八坂地区の秋祭り)が行なわれる。因みに、掛川市街の秋祭りとは時期がずれている(八幡様の方が早い)ので、互いに相手地区の秋祭りを見に行くことが可能である。

写真は、裏口(駐車場側の入り口)。

駐車場：有・無料 トイレ：有

問合せ：0537-27-1690

公式サイト：<http://www.geocities.jp/kotonomachihime/>

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

食事処・茶葉・土産等の物産・生鮮野菜・お休み処

A10 道の駅掛川 掛川市八坂 8 8 2-1

掛川市街から東に約 7 km の旧国道 1 号線沿いにある。

国道 1 号線日坂バイパスから(八坂 IC の数百 m 東で)直接出入りできる他、旧国道 1 号線からも入りできる。(バイパス上り線とバイパス下り線と旧国道 1 号線は駐車場が分かれており、IC 代わりや U ターン場所として利用することは出来ない)



下記 7 店舗が入居している。

1. 「時之栖」運営のセルフサービス食堂と喫茶「COKO-COKO」(8時～20時)
2. 地元手づくり料理の軽食堂・弁当販売「茶茶はちまん」(9時～17時)
3. 自然薯とろろ汁・蕎麦・饅頭の「仙の坊」(9時～17時)
4. 農産物直売所(9時～17時)
5. お茶を飲んだり茶葉を買ったりできる「お茶処東山」(9時～17時)
6. ハムやウインナーやチーズの販売の「時之栖 手作り工房」(9時～19時)
7. コンビニエンスストア「ファミリーマート」(24時間営業)

毎月第 2 月曜日は、ファミリーマート以外は休みである。



農産物直売所は、品揃え豊富だが、地元住民の買い物処も兼ねているため、地場産品だけでなく、地元以外の新鮮野菜なども並ぶので、土産購入の際には注意。

平成 23 年 1 月にテレビ番組「ためしてガッテン」及び「みのもんたの朝ズバッ！」で取り上げられた掛川茶(ヤブキタの深蒸し)を安く買える。特

に、布袋入り 100 包 1050 円の品は、抹茶が配合されてることもあり、値段・味・茶殻始末の点でお勧め。

小腹が減ったときには、仙の坊の「自然薯 とろろ丼ミニ」(300円)がお勧め。

駐車場：有(200台以上)無料(国道 1 号線の駐車場は大型車は不可)

トイレ：有

入場料：無料

子供：可

土産：掛川茶・地場物産品・地場新鮮野菜・他

同伴：家族連れ向き

問合せ：0537-27-2600

掛川市サイト：<http://lgportal.city.kakegawa.shizuoka.jp/kanko/east/mitinoeki.html>

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

梅園・農産物直売(期日限定)

A11 こちの里

東山口(掛川市伊達方)

掛川市街から国道1号線を東に約5km、JA東山口支所(掛川市農協東山口支所)の角から北上し、間もなく国道1号線掛川バイパスの下をくぐった直後に、Y字



路を左に行って数百m。

3種の白梅の木が数百本一面に植えられている。観光梅園でなく栽培梅畑であるため、施設や店舗の類は皆無。

毎年2月中旬の日曜日9時~15時に、掛川市農業活性化やる気塾東山口地域塾が「梅まつりin東山口」を開催し、音楽バンド演奏・露店販売・農産物直売などが行なわ

れる。

駐車場：無(路上駐車可)

入場料：無料

トイレ：無

子供：可

同伴：家族連れ向き

問合せ：0537-27-0121(掛川市農協東山口支所)

史跡

A12 伊達方一里塚

掛川市伊達方(旧地名：一里山)

掛川市街から国道1号線を東に約5km、JA東山口支所の直前を東名高速道路菊川IC方向に分岐右折して数百m。



東名高速道路菊川ICからは国道1号線を目指して北上し、国道1号線に出る直前のT字路の突き当たり。

路線バスは、掛川駅北口から東山線、新道伊達方停留所下車、徒歩(すぐ東の信号機から旧道に向かって南下、突き当りから西へ)5分。掛川駅に戻る路線バスの伊達方停留所は目前(八百屋の向かい、本来の一里塚の場所)。

江戸より57番目の塚。本来は一里塚があったのは数十m東だが、市が空き地を地権者から無償で借りて小公園と記念碑を建立した。

初夏には躑躅が綺麗である。基本的に売店は無いが、すぐ東に八百屋がある。

旧東海道ウォーキング上の道標になっている。

駐車場：無(無理すれば南方に路上駐車可)

入場料：無料

トイレ：無

子供：可

同伴：一人ぶらり

問合せ：0537-24-8711, 0120-70-8080(掛川観光協会)

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

牛頭道を西へ

A13 東山口から西山口まで

東山口(A9 事任八幡宮、A10 道の駅掛川、A12 伊達方一里塚)を走行若しくは歩行してきたら、西山口に向かう。此処で通るのは、通称「牛頭道」(ごうずみち)である。

次ページの地図を参照されたい。

先ず、伊達方一里塚から菊川市方向に南下し、十三間橋(とよまばし)で逆川を渡ったらずく、右折して狭い道に入る。御屋敷の軒先をかすめる自動車通行 possible の道を西に向かうとやがて、防火用水を過ぎて、人ひとりがやつの狭い道となり西向きから南向きに転じ、十字路より再び自動車通行 possible の道に出会う。十字路を右折して自動車通行不能の道に入って西に坂を下ると、道は南向きに転じる。自動車通行 possible の道に再び合流し、再び逆川を西に渡り、直後の突き当たりを右(北)に向かうと、諏訪神社の脇に出る。

自動車の場合は、伊達方一里塚から諏訪神社まで、地図に点線で示したように、国道1号線を迂回されたい。

国道1号線ルートを歩いている人も多く見かける(国道1号線には歩道が完備している)こともあり、徒歩の場合も、古道(約四百年前のルート)を通らずに楽な新道に行くのも良からう。

さて、諏訪神社を左折して西に向かい、国道1号線に合流する直前で、左折して南下する。栄川(さかがわ)中学校を過ぎると道は西向きに転じ、左から来る新道と合流する。

此処からは一本道(牛頭道)であり、延々と西に走行または歩行した後、西山口小学校脇に出る。この後は、馬喰橋(ばくろばし)に向かうことになる。

途中に、「鞍骨の池」が有る。鞍骨の池から南に行くと、満水(たまり)にある「22世紀の丘公園」と、その中に高齢者福祉施設・催事場・会議施設・スポーツ施設などを兼ね備えた「たまりーな」が有る。鞍骨の池から北に行くと、国道1号線との角にコンビニエンスストア(サンクス山鼻店)が有る。

池

A13a 鞍骨の池(くらぼねのいけ、くらぼねのいけ)

掛川市逆川422-1

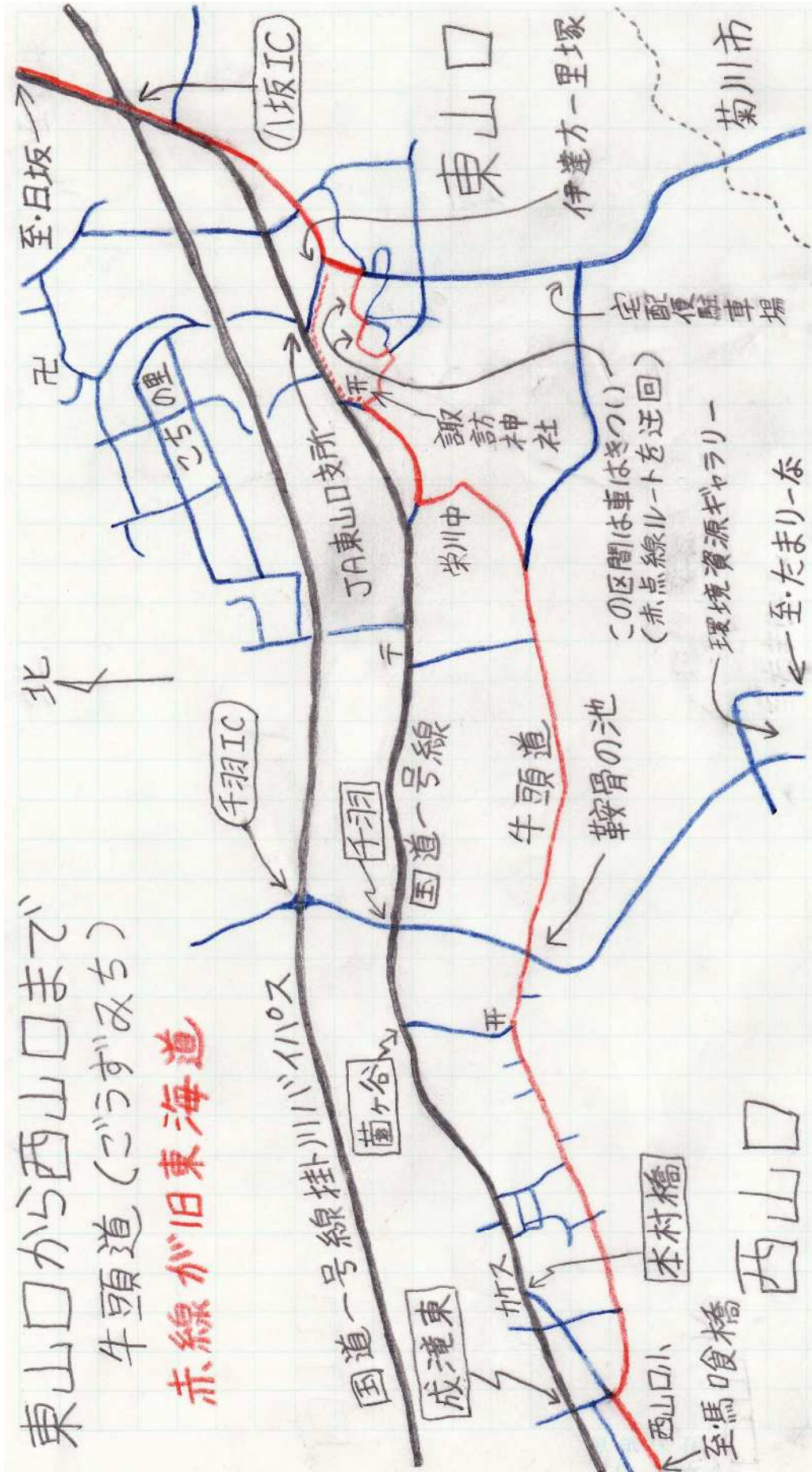
夏には蓮が咲き誇る池である。通称「池下の池」。

浄水場(現在は貯水場)の設置で面積が半減した。

享徳5年に、今川の大將であった堀越入道陸奥守貞延が武田軍に追われ、この池の土手に鞍橋(くらぼね)を埋め自刃したことから、名付けられたとされている。



歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)



歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

食事処(和食)

A14 くずかわ茶寮 寅や(とらや)

掛川市葛川1177-2

シャブシャブやすき焼きを売りにする高級な和食処だが、ランチタイムには、安価な定食などがある。土日にも、ランチタイムはある。



掛川市街から東に約2 km。

場所は、少々、分かりにくい。

国道1号線の葛川交差点(掛川警察署の角)の南200mにある交差点(馬喰橋の東)より、旧東海道を西に200m、左の写真の狭い道(「もちや」の西)を北に入る。すぐに狭い橋を渡り、更に200mほど道なりに進むと、右手に、道から引っ込んで建っている(道端に看板あり)。

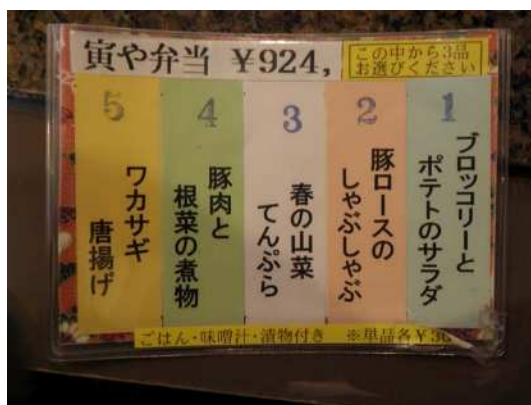
路線バスは、掛川駅北口より東山線、葛川停留所下車。

ランチタイムは11時半~14時半(ラストオーダーは14時)

丼物(ミニサラダと味噌汁と漬物が付く)は、親子丼735円、かつ丼840円、天井945円、ほか。定食は、豚生姜焼き定食1050円、チキンカツ定食1050円、地鳥から揚げ定食1050円、えびフライ定食1260円、豚カツ定食1260円、てんぷら定食1365円、とろろ定食1365円、ほか多数。(もっと高いものも揃っている)

いちばん人気は、下の写真の、寅や弁当924円(デザート付きなら1150円)

おかず5品の中から3品を選ぶ。御飯、味噌汁、漬物が付く。(まれに売り切れあり)



ディナータイムは17時~22時(ラストオーダー21時半) 委細省略。個室あり。

駐車場: 有(20台)無料

問合せ: 012-012-5464

定休日: 水曜日 同伴: 一人ぶらり・家族連れ・カップル・知人と・客と・宴会

公式サイト: <http://www.just.st/307821> (主にケータイ向け)

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

食事処(インド・ネパール風カレー)

A15 GANESHA (ガネーシャ)

掛川市葛川613-3

馬喰橋の東の交差点より南に400m(オーバブリッジには乗らずに側道を)、東海道本線に突き当たって右折して西へ150m、右手にある。

掛川駅北口から東に1.2km、左手にある(徒歩15分)

インド・ネパール風カレーの専門店である。大きなナンが焼きたてで、お代わり自由。インド人と思しき店員の対応が親切。安さが魅力。

3年前まではK a t h m a n d u (カトマンズ)という名だった。

ランチタイムは11時~14時半。



Aランチ(写真)780円:日替わりカレー、ナンまたはライス、スープ、サラダ、ソフトドリンク、デザート。

Bランチ880円:カレー(5種中の1種)、ナン、スープ、サラダ、ソフトドリンク、デザート

Cランチ1080円:カレー2種(5種中)、ナン、チキンティカ2個、スープ、サラダ、ソフトドリンク、デザート。



SPECIALランチ1450円:カレー2種、チーズナン、タンドリーチキン2個、スープ、サラダ、ソフトドリンク、デザート。

カレーライス680円:チキンカレー、ライス、スープ、サラダ。(お代わりなし)

カレーの辛さは4種類から選べる。

ディナータイムは17時~22時。委細省略。

駐車場:有(7台)無料

問合せ:0537-21-3467

定休日:月曜日(祝日なら営業)

同伴:一人ぶらり・家族連れ・カップル・知人と

「湯の道」にもインド風カレー専門店「C15 ビニータ」がある。本場カレー専門店が2軒もあるとは驚きである。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

東海道を西へ

A16 馬喰(ばくろ)橋から七曲(ななまがり)まで

(葛川、新町、喜町、塩町)

旧東海道の馬喰橋を西進し、渡り切ると左側に「葛川一里塚」がある。そこには近年建てた石柱の一里塚があるが、昔は松が植えられていたという。反対の右側には「東海道のモニュメント」があり、すぐそばの「もちや」では名物「振袖もち」を売っている。



約700m西進すると変則の4叉路に出る。この交差点には「木戸」があった。突き当りの木製の「七曲標識」に沿って左折すると七曲が始まる。「東伝寺」の屋根を右に見て南進し、最初の道を右折する。突き当たりに石造りの「秋葉常夜灯」があり、秋葉街道と重なっていたことがわかる。そこを左折するとお茶屋さんの倉庫にぶつかる。右折して西進し(途中から陣場峠を越えてきた「塩の道」と合流する。)突き当たりを右折する。50m程行ったクランク状の所が「七曲」の終わりで、ここに「東番屋」があった。今はその「説明板」が立っている。道が広場状で人溜りができるようになっており、昔の賑わいが聞こえてくるようだ。「七曲」は、山内一豊が敵を直接城に近づけないよう、戦略上工夫したものとされる。「東海道のモニュメント」「塩の道モニュメント」も建てられている。この東番屋からが掛川宿で城下になる。



「七曲」からさらに西側を通る県道掛川大東線(県道38号)までの間を「塩町」という。塩の道を運ばれた塩を扱う「塩問屋」があった所だ。仁藤町交差点を南進した県道掛川大東線沿いに「小貫屋」という酒屋があったが、昔の塩問屋だという。

クランクから50m程行った十字路を左折西進し、最初の十字路を右折する。北進して十字路を左折し大通りに出る。大通り十字路北西角に「高札場」があった。今は何もないが和菓子の「桂花園」がある。掛川名物の葛を使った和菓子売っている。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

寺院

A17 天然寺

掛川市仁藤町5-5

旧東海道からは、仁藤町交差点より北に100m、左折してすぐの右手(北側)。

掛川城付近からは、大手門の南の交差点から東に100m、左手(北側)にある。
大手門駐車場の筋向い。



開創は明応三年と伝えられ、家康の加護を受けた、長い歴史を持つ寺であり、山内一豊も寄進を行なったことがある。門前を東海道が通る立地から防衛機能も果たしていたらしく、朝鮮使節の宿となるなど東海道と関わりの深い寺である。

コーヒーを日本に伝えた旧オランダ東インド会社の商館長ゲイスベルト・ヘンミの墓がある(オランダ貿易使節団であるヘンミの一行約70名は、1798年(寛政10年)のはじめに長崎の出島を出発し、4月に江戸城で11代将軍徳川家斉に謁見して贈り物を献上し、5月に江戸を発って長崎への帰途、6月5日に掛川宿の本陣林喜多左衛門方に宿泊、ヘンミはかねてからの病気が悪化して、6月8日に51歳で死去、天然寺に葬られた・・・死去は4月24日との説もある)。墓石は蒲鉾形で、当時のオランダ人墓の意匠を現在に伝える。コーヒー愛好家や研究者がお参りに訪れるという。

灌仏会には稚児行列が行なわれる。敷地内にある幼稚園の園児が白象の像を引く姿を見られる。

因みに、住所が掛川市掛川759や掛川市掛州759などとなっている資料もあるが、誤りである。

尚、天然寺の北側には、3年に一度の掛川祭り大祭に登場する仁藤の大獅子の、保存小屋がある。

問合せ：0537-22-4055

同伴：一人ぶらり・家族連れ・コーヒー愛好家

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

A18 掛川駅 及び その周辺

(連雀西交差点の南)

掛川駅は、東海道本線の駅であり、東海道新幹線こだま号の停車駅であり、天竜浜名湖鉄道(昔の二俣線)の始発駅である。

駅南口構内に売店「これっしか処」が有り、掛川の名産品の多くは、此处で買える。

駅南口には、これっしか処と喫茶店カフェ・ド・ラーフはあるものの、コンビニエンスストアや食事処は皆無。(近隣のホテル内にはレストランやラウンジはあるが)

駅北口には、コンビニエンスストア(ローソン)が有り、少し歩けば食事処は沢山あるし喫茶店もある。バスターミナルは北口にある。タクシー乗り場は南北両方にある。

A18a 掛川駅周辺市営駐車場事情

掛川駅北駐車場・掛川駅南第1駐車場・・・駅に近い、混む

30分 100円、10時間~24時間 2000円、24時間以上は12時間ごと 1000円加算。

掛川大手門駐車場・・・駅北口からは北北東に10分ほど離れるが、掛川城に近い

30分 100円、5時間~24時間 1000円、24時間以上は12時間ごと 500円加算。

掛川駅南第2駐車場・・・駅南口から西に10分ほど歩く、すいていることが多い

1時間 100円、10時間~24時間 1000円、24時間以上は12時間ごと 500円加算。

他に、民間駐車場も幾つかある(駅南に多い)。

A18b 掛川駅駅舎

掛川市南1-1-1

北口駅舎は、新幹線停車駅では唯一の木造駅舎である。

但し、JR東海は耐震性の高い建物に建て替えたいと言っており、(高いお金を出してでも)木造のまま耐震補強する運動が起きている最中である。



A18c これっしか処

掛川駅南口構内

駅構内の売店。なまものを除き、掛川土産の有名どころの殆んどが揃っている。

売り場の他に、ギャラリーもある。

定休日：元旦(販売)・祝日を除く月火水(ギャラリー)

営業時間：9時~20時(販売)・11時~16時(ギャラリー)

問合せ：0120-47-1056

公式サイト：<http://www.koresika.jp/index.html>

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

A18d おいでえ家 掛川市肴町1-13

無料のお休み処。掛川市中心市街地活性化協議会街なか応援隊主催。

掛川駅北口から150m北上、交差点の北東角にある。

自動車のときは、掛川駅北口のすぐ北にある、掛川駅前パーキング(ユニ跡地)30分100円・5時間~24時間1000円が近い。

定休日:第二・第四水曜日

営業時間:10時~17時(11月~2月)・10時~18時(3月~10月)

問合せ:080-1567-2165 (かけがわ街づくり(株)0537-61-1151)



A18e 沙羅の木 掛川市肴町1-10

喫茶店。列車待ちの時間つぶしにお勧めだが、食事も美味しい。以前は西山口にあった。

掛川駅北口から150m強北上、おいでえ家のすぐ北。

自動車のときは、掛川駅前パーキングが近い。



コーヒー400円、紅茶400円、ココア500円、
コーヒーフロート500円、クリームソーダ500円、
ケーキセット600円、トーストセット600円、
パスタセット800円、煮込ハンバーグセット900円、
オムライスセット1000円(左の写真にコーヒーか
紅茶が付く)、ビーフシチューセット1000円、など。

定休日:無休

営業時間:8時~17時

問合せ:0537-21-2777

A18f popcorn (ポップコーン) 掛川市駅前8-6

喫茶店。掛川としては遅くまで営業しており、駅に近い。

ホットモカジャヴァなどの変わりコーヒーが豊富で、頻繁に列車待ち・バス待ちする人を飽きさせない。少々長時間の滞在でも嫌な顔をされないのは、バス待ち2時間が日常の掛川では有り難い。店内は少々薄暗い。

掛川駅北口(ローソンの北)にある。

定休日:不定

営業時間:9時~21時(ランチタイム:平日11時半~14時)

問合せ:0537-22-2464

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

掛川城周辺著名観光スポット (連雀西交差点の北)

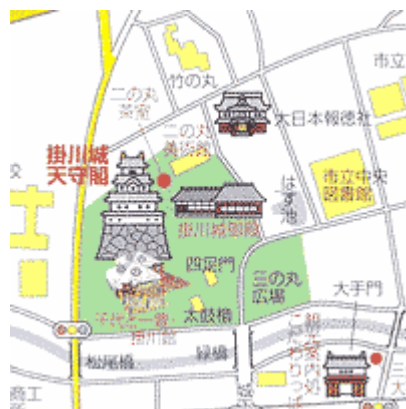
掛川城周辺には、著名観光スポットが点在する。

掛川駅から北に徒歩7分、車なら大手門駐車場(30分100円・5時間~24時間1000円)に停めて西に徒歩数分。

問合せ: 0537-21-1149

(掛川市役所 商工労働観光課)

大手門駐車場: 掛川市城下8-1



A19a 掛川城天守閣

掛川市掛川

戦国時代に山内一豊が建立したことで有名。但し、お千代様が訪れたことは無い。9時~17時(11~1月は16時半迄)。安政元年に倒壊、平成6年に完全木造で復元された。

A19b 掛川城御殿(二の丸御殿) 掛川市掛川

掛川藩の、儀式の場・藩主公邸・役所として使用されていた建物。現存する城郭御殿は日本に4つしかない。

安政元年に倒壊、文久元年に再建。9時~17時。



A19c 掛川城公園

掛川市掛川

天守閣再建と同時に整備された、はず池を中心とする小さな公園。春は桜が綺麗。

散策向き。休憩できる東屋がある。

A19d 大日本報徳社

掛川市掛川1176

二宮尊徳の教えである「報徳思想」を説く報徳社の大本山。日本初の公会堂。10時~16時(平日は9時~)。

平成22年に大改修された。女性トイレも設置予定。



A19e 二の丸茶室

掛川市掛川1138-24

平成14年に建築された、伝統的な数寄屋造りの茶室。茶道の心得などなくとも、「お茶席は初めてです」と名乗れば、全く問題ない。9時半~17時。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

A19f 二の丸美術館

掛川市掛川 1 1 4 2 - 1

市営の美術館にしては珍しく、たばこ道具・刀装具・金工品など美術工芸品などの自前收藏品を持つ。9時～17時。

玄関前が、天守閣撮影の好スポット(午後は逆光)



A19g 竹の丸

掛川市掛川 1 2 0 0

江戸時代に藩の重臣の屋敷があった場所、明治時代に葛布を扱う豪商が建てた大邸宅。9時～17時。

平成21年に大修復された。

A19h 大手門

掛川市城下

逆川(さかがわ)の南を東方向に数分、大手門駐車場至近。

安政元年に地震で倒壊、平成6年に元の場所の北50mに再建された。付随する番所は、江戸時代のものを移築。



A19i こだわりっぱ

掛川市城下 6 - 1 2

観光案内処、食事処(和西料理ふしおん)、土産物販売所、お休み処、等。9時半～17時。0537-24-8700

観光人力車の発着所でもある。

A19j 小崎葛布工芸(おさきかっぺこうげい)

掛川市城下 3 - 4

土産物(葛布工芸品)販売。

お茶と並んで掛川が誇る葛布の座布団や財布など多種多様の工芸品の製造と直販。10時～17時(平日8時半～)、0537-24-2222



A19k すいのや

掛川市城下 6 - 1

駄菓子屋だが、掛川おでんで有名。買って帰る人が多いが、食事席もある。10時～18時半。

大手門のすぐ南。0537-22-7432

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

東海道を西へ

A20 仁藤から十九首(じゅうくしゅ) 二瀬川まで

(仁藤、連雀、中町、西町、十王、下俣町、十九首、二瀬川)

「桂花園」前を左折し、老舗呉服店「ます忠」のある仁藤町交差点に進む。ここから二瀬川交差点までの旧東海道は、今は県道掛川大東線(県道38号)になっている。

仁藤町交差点から1つ目の信号を右折すると「A19h 大手門」がある。右折せずそのまま西進すると、次の連雀西の交差点との間に「本陣跡」があり、道の右側に説明板が立っている。



連雀西の信号を右折すると「A19a 掛川城天守閣」「A19b 掛川城御殿」「A19g 竹の丸」「A19d 大日本報徳社」「A19f 二の丸美術館」「A19e 二の丸茶室」などがある。左折すれば木造駅舎の「A18b 掛川駅」に至る。

連雀西信号を直進し、次の中町交差点との間の左側に、「脇本陣」と「問屋場」があったという。しかし、今は何も残ってはいない。

中町交差点を西進すると西町に入る。しばらく行くと右側に「円満寺」がある。「円満寺」の山門は、掛川城の「落の門」だと伝えられる。小さいが柱が太くがっしりした門である。掛川城の内堀(蓮池)畔にあったが、廃城後、明治5年に寺に払い下げられた。その時、柱が長すぎたので、2尺5寸程下を切って移築したと説明板にある。

「円満寺」から県道掛川大東線を西に進む。十王との境を流れる「新知川」との間に「西番屋」があったというが、今は何も無い。「東番屋」からこの「西番屋」までが掛川宿で城下だった。

狭い新知川を渡り十王に入る。入ってすぐの川沿いの道を左折する。最初の道を右折し50m程行くと左に「十王公民館」がある。その裏に「十王堂」がある。「地藏菩薩(釈迦入滅後の救われなかった衆生を救うために、56億7千万年後に現れるという弥勒仏が出現するまでの間、衆生を導くという)」が「十王(冥府で亡者を裁くという閻魔大王などの十王)」と一緒に祀られている。十王の地名もこのお堂に因む。住宅地の狭いスペースだが霊験あらたかな雰囲気のため、入り口に地元の人の思いがこもった「説明板」がある。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)



県道掛川大東線を十王堂とは逆側へ右折し、新知川沿いを50m程北進するとY字路に出る。そこを左に行くと大きな長屋門がある。この辺りの庄屋だったという「山崎家」である。門からは大きな母屋や土蔵が見え、後ろには鬱蒼とした屋敷森がある。門前に「明治天皇掛川行在所」の石碑があり、大変格式の高い家だったことが分かる。しかし、民家で公開されていないので、外からの見学にとどめ、迷惑をかけぬよう注意したい。

新知川から西進し下俣町に入ると道は右にゆるく曲がる。カーブの頂点が3叉路で「旧東海道」「十九首塚へ200m」の木製標識がある。その三叉路を右に進んだすぐ右手に石造りの「秋葉燈」がある。その脇に「成田山遥拝所」と刻まれた石の門がある。門をくぐり小さな川(血洗川)に沿って奥に入ると、「成田山遥拝所」「東光寺」が右左に並んでいる。東光寺の左を通過して大きな櫛が林立する墓所を抜けると、そこが「十九首塚」である。



「成田山遥拝所」は明治時代に作られた新しいものだが、「東光寺」は養老年間に行基が開いた真言宗の古い寺だった。その後、平将門を弔って彼の持念仏「薬師如来」を祀り「平将寺」とっていた時代を経て、今は曹洞宗の寺「東光寺」となっている。

「十九首塚」は、天慶(てんぎょう)の乱で、藤原秀郷(ひでさと)らに討たれた平将門一派19人の首級(しゅきゅう)を弔った塚と言われているが、確かな史料の裏付けはない。

十九あった塚も時の流れとともに失われて一番大きな塚(将門のものと思われる)に合祀されて僅か一つになって荒れ果てていたが、平成15年にはすっかり新しく整備された。今では地元の人に手厚く供養されている。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

秀郷が首実検に供するため19人の首級を関東から京へ運ぶ途中、ここで都から下って来た検視役の勅使(賊臣の首級を京に近づけるなという命を受けていた)と出会った。そこで、東光寺の入口から右側へ流れる小川で首級を洗い、橋の上に並べて検視を受けた。以来、小川は「血洗川」と呼ばれるようになったという。

秀郷は「将門は逆賊とはいえ名門の立派な武士」といって、その一派18人の首共々手厚く葬った。ときに天慶3年8月15日であった。「十九首」の地名もそれに因むのはいうまでもない。



「十九首塚」からさらに進んで、「逆川(さかがわ)橋」を渡る。橋からは掛川城が遠望でき、なかなかの景色である。橋の向こうは国道1号線二瀬川交差点である。左折すると二瀬川の町筋で、昔の面影を残す商店が立ち並ぶ。西へ500m程行くと倉真(くらみ)川に架かる「大池(おいけ)橋」に出る。橋を渡ると5叉路である。仁藤から約2km、ここまでの道には歴史的遺物が多く見所いっぱいである。

駐車場：大手門駐車場(30分100円・5時間~24時間1000円)が近い

入場料：掛川城付近は有料

トイレ：なし。A19c 掛川城公園・新知川公園(新知川を挟んで十王堂の反対側)にある。

同伴：家族、歴史好きの人

食事：仁藤町交差点を大東方面へ南下して3本目の道を右折、200m先にうなぎ屋が2軒ある。両店とも人気ですぐ満席になる。予約すれば安心。

「うなぎ専」掛川市肴町7-8 0537-22-5354

「甚八」掛川市肴町7-12 0537-22-5638

土産：掛川城公園近くの「こだわりっぱ」、掛川駅の「これっしか処」に特産物がある。

問合せ：掛川市商工労働観光課 0537-21-1149

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

東海道を西へ

A21 大池橋から善光寺・仲道(ちゅうどう)寺まで

(鳥居町、橘町、末広町、岡津)

「大池橋」を渡ると5叉路に出る。川沿いの一番右の道を行くと「秋葉道団地」へ行くが、この道へ入ってすぐの小道を左折すると「塩の道古道」である。右から2本目の広い道が「旧県道掛川森線」で、近代の「秋葉街道」である。入ってすぐ右に「秋葉山遥拝所」がある。東海道を急ぐ旅人が、ここで「秋葉神社」を遥拝した。江戸時代にはこの辺りに青銅製の大きな「秋葉山一の鳥居」と「秋葉常夜灯」一対が建ち、「秋葉街道(塩の道と重なる)」の入り口であることを示していた。「鳥居町」はその名残りである。右から3本目、すなわち直進すると現在の「国道1号線」である。



この5叉路を川沿いに左折した道が「旧東海道」で、現在の県道掛川袋井線(県道253号)である。左折した所の土手に、大池橋付近の「説明板」と「東海道のモニュメント」が立っている。この大池橋交差点は、「東海道」と「秋葉街道・塩の道」の分岐点で、当時の賑わいや人々の心情が思われ、胸に響くものがある。「倉真川」はこの下で「逆川」に合流吸収される。この道には歩道がなく、その上交通量がかなり多いので、歩く場合は細心の注意が必要である。特に子供連れの場合やお年寄りには気をつけたい。

橋の袂から直進し、「鳥居町」信号を通過して「天竜浜名湖鉄道」をくぐる。ガード左に「西掛川駅」がある。道なりに行き、感応式信号を通過して200m程進むと、右側に「橘区屋台置場」、その奥に「白山神社」がある。続いて同じく右側に「宗心寺」がある。



歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

しばらく進み、次の信号を渡るとすぐ左に「一乗山蓮祐寺」がある。門前の信号際に「東海道のモニュメント」があり「大池一里塚跡」の表示がある。「一里塚」は一里(3,9km)ごとに置かれ、街道の両側に5間(9m)四方の土を盛って榎(えのき)や松を植えた。ここには松が植えてあったという。



さらに道なりに200mほど進むとY字路がある。右に進み(左に行くと逆川の土手を上り橋を渡って「愛野駅」方面へ抜ける)しばらくすると道はゆるく右にカーブする。またすぐ左に曲がるが、先程のY字路から300m程進んだ右側に、煎餅屋「平松商店」がある。大正時代から煎餅の製造販売をしている。国産米だけを使うといい、まことに美味である。そこから100m程進むと、右側に地酒で有名な「曾我鶴」の醸造元がある。大きな土蔵と高い煙突が造り酒屋の貫禄を見せる。この「曾我鶴」は掛川駅の「こだわりっば」で販売されている。



やがて道は「国道1号線掛川バイパス」沢田ICにぶつかる。信号を右前に直進してガードをくぐり、すぐの信号を左折する。そして、国道1号線掛川バイパス沿いを100m程進むとY字路がある。そこを右にとって国道253号を暫く行くと一旦停止のある4叉路に出る。その4叉路を直進し、4、5本残る松並木を見ながら進むと東名高速道路の高架がある。高架をくぐって西進すると垂木(たるき)川に架かる「善光寺橋」に出る。

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

善光寺橋を渡るとすぐの所に右に入る細い道がある。曲がり際の民家の庭先に「自然石の道標」が置かれている。かなり大きなもので、真中に「従北岡津區(これより北、岡津區)」と深彫りされ、右に「掛川町まで一里」左に「袋井町まで一里」と彫られている。近代のものであまり古くはないが、当時の交通が偲ばれて興味深い。

道標のある道を通り過ぎた右側が「善光寺・仲道寺」で、二つの寺が同じ境内にある。

この場所がお江戸日本橋と京三条大橋の中間点であるところから「仲道寺」という名がついたという(参道脇の石碑に「東海道真中仲道寺」とある)。「善光寺」は、坂上田村麻呂の守本尊「阿弥陀如来」を祀る古い如来堂である。



先程の道標を右折し50m行くと右側に仲道寺の「参拝者用駐車場」がある。

「大池橋」からこの「仲道寺」までは約3kmである。この先、旧東海道は、原川の街に向かって「松並木」が続き、原野谷川を「同心橋」で越えて袋井宿に向かうのである。

駐車場：宗心寺・蓮祐寺・仲道寺にあるが、参拝者用のものであるので心遣いが必要
場所によっては路肩駐車も可能だが、交通量が多いので充分注意が必要
(当然乍ら、駐車禁止の所には絶対駐車しないように)

トイレ：宗心寺・蓮祐寺・仲道寺にあるが、参拝者用であるので心遣いが必要である。

同伴：一人ぶらり・家族連れ・歴史好きの人

(歩道がなく交通量が多いので、子供・お年寄りは充分注意が必要)

食事：仲道寺のすぐ西に「A22 椎の木茶屋」がある。 0537-22-3608

土産：細田の「平松商店」の煎餅 0537-22-3611

掛川駅構内の「A18c これっしか処」で販売されている地酒「曾我鶴」

問合せ：掛川市商工労働観光課 0537-21-1149

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

食事処(割烹)・旅館

A22 椎の木茶屋

掛川市領家1495

仲道寺のすぐ西の小川を渡ると右手にあるのが「椎の木茶屋」である。

原野谷川東に広がる原川の街は、室町時代から江戸時代にかけて、「市場」や掛川宿と袋井宿の「間の宿」(あいのしゆく)として栄えた。以前はここにあった「椎の木茶屋」は、掛川藩主太田備中守の休息所として建てられ、後に下附されたという由緒ある茶屋である。屋号は、原野谷川に架かる同心橋の袂にあった「椎の巨木」に因むと伝えられる。明治元年、明治天東京行幸のみぎり、「椎の木屋伊藤又左衛門方」すなわち今の「椎の木茶屋」の茶室(現存しない)に御休息されたという。最近、現在地に移転した(現在地も旧東海道沿いである)。



法事などの団体客が多いが、一人で行っても問題ない。品のよい料理を、ゆっくりと個室で味わうことができる(個室しかないの、一人で行っても個室)。と言っても、隣室とは襖一枚を隔てただけだし欄間が開いているので、必ずしも落ち付けるとは限らないが。

宿泊も可能だが委細省略。

とんかつ茶漬1140円、釜飯定食(30分待ち)1160円、焼肉定食1240円、煮物定食1240円、ヒレカツ定食1320円、茶屋天井1400円、刺身定食1450円、いも汁定食1575円(季節限定、要予約)、うな丼(中国産)1050円、うな丼(浜名湖産)1890円、揚げ物御膳1550円、エビフライ定食1870円、刺身膳1870円、茶屋弁当(上)1890円、など。(もっと高いものも沢山ある)

ランチタイムは11時~13時半(経験では、早く終わることもある)。

「1050円ランチ」1050円(コーヒー付き1200円)と「とろろ汁ランチ」1050円が有る。



1050円ランチ(左の写真)は、おかずは9種中から2種(写真では、刺身と天ぷら)を選べ、御飯(おかずが丼物のときは付かない)と茶わん蒸しと味噌汁と香の物が付く。

9種のおかずとは、刺身、天ぷら、豚カツ(サラダ付き)、焼き魚、焼き肉、カニクリームコロッケ、天井、カツ丼、カキフライ(丼物を2つ選ぶことはできない)。

駐車場：有(数十台)無料

問合せ：0537-22-3608

定休日：水曜日

営業時間：11時~14時, 17時~21時

同伴：一人ぶらり・家族連れ・カップル・知人と・客と・宴会

公式サイト：<http://www.nande.com/siinoki/index.htm>

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

東海道の面影、西の市境まで

A23 原川の松並木

掛川市原川

旧東海道(県道253号線)を進み、国道1号線掛川バイパス、そして東名高速道路の下を潜ると間もなく小さな川(垂木川)を越える。参道脇の石碑に「東海道之真中」



とある仲道寺・善光寺と、椎の木茶屋がある。原川の松並木はここから始まり、500mほど続く。東海道の面影を残す松並木は掛川市内ではここだけ。傷んだものは新しく植え替えられ並木が維持されている。遠い江戸時代に行きかけた大名行列や旅人が目に浮かぶ。

松並木から北側に目を向けると、白壁の屋敷が目に入る。代官屋敷が再建され、説明板には、横須賀藩の旗本とある。(住まいのため公開はされていない)



松並木の端には、本尊が“足痛薬師如来”と呼ばれる金西寺がある。

原川は、掛川宿と袋井宿の中間にあり、旅人相手の茶屋や酒屋が並ぶ「間の宿」だった。その名残が椎の木茶屋である。

金西寺の先の交差点を過ぎると、県道253号線と国道1号線の重複区間の原野谷川に架かる同心橋。ここが、掛川市内での東海道の西端となる。

掛川市街から西へ約4km・自動車で約10分のところ。掛川市内の東海道東端、小夜の中山から15kmほど。一日かけて、一度は歩いてみたい。

駐車場：無

トイレ：無

同伴：一人ぶり

食事：A22 椎の木茶屋(割烹)・片浜屋(寿司・0537-22-3638要予約)

問合せ：0537-21-1149 掛川市役所 商工労働観光課

歴史街道と掛川(東海道と塩の道が交わるまち)

「ちょっと一休み」

「掛川市民憲章」

平成19年3月23日制定

わたくしたち掛川市民は、赤石山系から遠州灘にいたる豊かな自然のめぐみに感謝し、すぐれた伝統・文化と生涯学習により育まれた我が郷土に誇りをもち、だれもが健康で幸せに生きていけるよう、この憲章を定めます。

- 1 わたくしたちは 美しく豊かな自然を大切にし 未来に向けまもり育てます
- 1 わたくしたちは 郷土を愛し 先人の築いた伝統と文化を尊び さらに高めます
- 1 わたくしたちは あたたかな家庭をつくり 生きがいをもって 勤労に励みます
- 1 わたくしたちは きまりを守り 礼を重んじ 思いやりの心を大切にします
- 1 わたくしたちは 充実した人生を送るため 日々健康に努め 生涯学び続けます